



第3回松山大学図書館書評賞・表彰式

第3回松山大学図書館書評賞の受賞者が2003(平成15)年11月20日に決定、表彰式を2004(平成16)年1月16日(金)に行いました。受賞者は以下の通りです。

なお、作品については松山図書館ホームページに掲載しております。(http://www.matsuyama-u.ac.jp/lib/syohyo/syohyo03.htm)

○最優秀書評賞 1名

人文学部社会学科2年 塩田 明人(初)

『アホでマヌケなアメリカ白人』(マイケル・ムーア著、柏書房)

○優秀書評賞 2名

人文学部社会学科3年 大野 絵里(2)

『野口体操入門ーからだからのメッセージー』(羽鳥操著、岩波書店)

人文学部社会学科3年 川嶋 周平(2)

『レヴォリューションNo.3』(金城一紀著、講談社)

○佳作 5名

経済学部経済学科2年 清水 拓郎(初)

『文章読本さん江』(齊藤美奈子著、筑摩書房)

経済学部経済学科2年 渡邊 正人(初)

『世界がもし100人の村だったら』

(池田香代子再話・C.ダグラス・ラミス対訳、マガジンハウス)

人文学部社会学科2年 山本 祐子(初)

『エンデ全集3巻ーモモーー』(ミヒヤエル・エンデ著、岩波書店)

人文学部社会学科3年 西 毅(初)

『三流』(長嶋一茂著、幻冬舎)

人文学部社会学科3年 福本 加奈(初)

『とるにたらないもの』(江國香織著、集英社)

注) カッコ内の数字は受賞回数です。

Contents

・基礎は固まった。さて棟上げは？ー第3回書評賞審査を終えてー

経済学部助教授 松井名津 P2

・今一步の書評作品に学ぶ、図書館書評賞の「ケイコウとタイサク」

経営学部助教授 松尾博史 P3

・第4回書評賞応募要項 松山大学図書館書評賞ちょっとQ&A P4・5

・私が薦めるこの一冊 経営学部助教授 河谷寿夫 P6

人文学部講師 寺嶋健史 P6

・図書館新システム稼働式 P7

・統計データで見る松山大学図書館 P8

基礎は固まった。さて棟上げは？—第3回書評賞審査を終えて—

経済学部助教授 松井 名津

今年度も無事に書評賞の審査を終えることが出来ました。第1回より審査に携わってきた身として、回を重ねるごとに応募作の水準が上がるのを実感するとともに、審査する側の審査眼（などという言葉はありませんが）が問われ続けている気がします。

さて応募作の水準が向上し、「感想文」ではない「書評」がほぼ定着したようです。それだけに第4回書評賞は激戦が予想されます。適切に本を紹介している、文章も破綻がない、というだけでは佳作すらむずかしい。そんな段階に達したのではないかと（いささかの期待も込めて）思っています。そこでいつもの講評に代えて（全体講評と個別講評は図書館ホームページに掲載していますからそちらを見てください）、「ちょっと応募でもしてみるか」という人向けのアドバイスを書いておこうと思います。

(1) 「誰もが書ける書評ではいけない」

文章表現も崩れていないし、誤字もない。話の展開もスムーズ。でも何か足りない。こういった応募作があります。その理由はたった一つ。出版社のお薦め文（新刊本の下の方に巻かれている帯の文章）になってしまっていることです。松山大学図書館書評賞が求めている書評はプロのライターによる書評ではありません。何故その本を紹介したいのか、どこにもっとも惹かれたのかなどなど。「あなた」が書いた書評を求めていることをお忘れなく。

(2) 「下調べは必修」

難しい用語、複雑な論理。専門書を読みこなすには数々の敵がいます。「己を知り敵を知らば百戦危うからず」とは昔の人の教え。ここは面倒でも敵を知るための下調べを怠らず、攻略法も押さえましょう。ということで専門書の書評のためには関連本を複数読む努力が必要となります。と、こう書いてと専門書の書評にチャレンジしてくれる人がいなくなるのじゃないかと心配になるのですが（実際専門家にとっても専門書の書評というのはなかなか難しいものなのです）、でも「己を知り」ですからね、身の丈にあった書評になればいいと思うのです。その分野の専門家並みの知識を求めているわけではありませんから、基本的なことを（宝島とかアエラのムックとかで）押さえた上で、もう一度本を読んでみてはどうでしょうか。

(3) 私的書評賞をやってみる

今年も同じ本を対象にした書評が複数出ました。比べてみると出来不出来がはっきりわかります。あ、このところ、この人とこの人は同じことを言いたいんだな、でも、こっちの人の方が絶対うまいよ。なぜかな？やっぱり読む人のことを考えてるし、うまく自分の経験を使っているものね。と、審査の過程で「うまい書評のツボ」がわかってきます。つまり、書評をたくさん読むことで書評の目利きになれるというわけです。そうやって自分の目を鍛えておけば、自分自身の文章を点検する時に便利です。自分の文章を読み直すときに、目

利きの立場になって評価できるし、その時の評価基準もすっかりしたもものになるというわけです（自分の作品を点検している芸術家のようなもの。『美味しんぼ』の海原雄山が、気に入らない自分の作品を壊すような感じ、といえはわかってもらえるかな？）。残念ながら学生の皆さんは、落選作を読めないわけですから、審査委員みたいな機会には恵まれない。でも方法が一つあります。自分で書評賞をやっちゃう。受賞作と同じ本を取り上げて、書評を書いてみましょう。それも意識して出来るだけ違った切り口から挑戦するのです。そして比較してみましょう。

え？自分の方がうまいって？

応募してください。

(4) 「本は何で出来ている？」

ちょっと変わった角度から書評を書くときのヒント。本は「中身」だけではなく「外側」つまり装丁や版型も含めて本になっているのです。また本によっては挿絵が重要だったり、作者以外の人の後書きと作者の内容が競演していたりもします。書評でこういった「中身以外の要素」を取り上げてもいいんですよ。授賞式でも言ったことですが「もし世界が100人の村だったら」という本が、ただ黒い字がまんべんなく印刷されているだけの本だったとしたら、これほどたくさんの人々に読まれたでしょうか。童話などを対象にするときは挿絵と本文の関係に気を付けてみるのも良いでしょう。このごろは活字のフォントや大きさ、紙面に占める位置や字間にこだわった本も出版されていますよ。

(おまけ) 「本がないなら入れちゃえ」

書評したい本が松山大学図書館に所蔵されていない!!!。あの本だったら自信作が書けるのに……。こういう場合の奥の手があります。松山大学図書館では学生からのリクエストを受け付けているのです。新刊書なら2~3週間で図書館に入るとか。但し本によってはリクエストに応じられない場合がありますから（例えば1冊50万円の豪華本）まずはカウンターの方々に相談してみてください。



今一步の書評作品に学ぶ、図書館書評賞の「ケイコウとタイサク」

経営学部助教授 松尾 博史

今年初めて書評賞の選考に関わり、50篇の書評を読んだ。受賞作品については審査委員代表が詳しく講評を書かれていますので（図書館ホームページに掲載）、ここでは残念ながら受賞にいたらなかった作品をもとに、気になった点を記すことにしよう。以下のような点に気をつければ、来年度の書評賞は君のもの（かもしれない）！

小説についての書評では、粗筋を簡潔に（ネタバレしにならないように）紹介するのももちろんだが、その小説の魅力がどこからくるのか分析することが望ましい。「ハラハラドキドキ」と書くだけで終わるのではなく、小説の緊迫感が人物造型やプロット、文体によってどのように生みだされているのか考えよう。評者の観点からの感想は紋切り型であってはならない。

いわゆる「名作」を書評の対象にするのは、「賞」を狙うという主旨からはやめたほうがいい。カフカの『変身』やエンデの『モモ』については既に論じつくされている。今さら何をA41枚程度で『変身』について語れよう。「私は読書体験が乏しく」とか、「名作とは知らなかった」と無知を楯にするのは作戦としては失敗である。

ベストセラーを書評で採りあげる場合は、内容を紹介するだけでなく、なぜその本がベストセラーになったのか、多くの読者の関心と呼んだ原因、現代のいかなる問題にその本が触れているのかを探ることも重要だ。ベストセラー、すなわち大衆受けした作品だけに、むしろ批判的な視点から読み込み、論述することが有効かもしれない。

『世界がもし100人の村だったら』や『nakata.net』のようにEメールやHome Pageを基にした対象作も増える傾向にある。このような作品を論じる場合は、EメールやHome Pageといったメディアをへて本にまとめられたことが、作品の文体や構成にどのような影響を及ぼしているのか言及して欲しい。

時事問題、社会問題に関する著作を書評の対象とする場合は、過去3年以内に刊行された本であるかどうかを確かめよう。それでも取って5年・10年前に刊行された著作を採りあげる場合は、刊行当時と現在のギャップを意識しながら論じることが大切だ。また、このようなテーマを主題にするのであれば、本から得た知見を基にして、評者自身がそのテーマについてどのように考えるに至ったのか、一言欲しい。その際、「これからも考えていきたい」と逃げたり、掘り下げ不足で常識論に墮することがないよう気をつけよう。

社会科学に関する著作を選ぶ際は、入門書ではなく、特定の問題を論じた新刊を扱うほうが書評賞の対象にはなりやすいだろう。入門書から得られる知見は、評者にとっては新鮮でも、むしろ社会常識、あるいは学問的常識に属するものであることが稀ではない。書評賞審査委員が主に人文社会科学の研究者であることを考えれば、入門書から得た知見をもとに委員をうならせる論評をすることがいかに難しいか想像が

つくだろう。逆に専門書に取り組めば、その内容をこなしきれないのが文から伝わってくる場合であれ、取って難解な著作にチャレンジする心意気を買う委員もいよう。

対象作からキーワードを抽出し、そのキーワードを中心に対象作の主要テーマを論じるのは、書評賞のような1200字程度の短評では効果的である。しかしキーワードはきちんと定義しないと、読んでいる者にはその内容が伝わらない。対象作を読んだ評者にとっては自明な命題でも、書評の読者にとっては未知であることを忘れてはならない。総じて、時には書く立場を離れて読むものの側に立ち、読者の反応について思い巡らすことが大切だ。そうすれば、理解しやすく、読者の気持ちを惹きつける文章が書けるだろう（最優秀作品を参考にしたい）。

いったん書き上げたと思っても、提出するのはちょっと待とう。2日程おいて頭を冷やし、読み返し、推敲しよう。全体の構成を見直してみる。もっとも効果的な展開になっているだろうか。場合によっては段落を入れ替え、部分的に書き直したり、冗長な箇所を削除したりすると、ぐっと締まった文章になる。論理構成が前半と後半で矛盾をきたしていないだろうか。対象作品の内容の紹介部分と、自分の意見、感想を述べた部分が、読者にちゃんと区別できるように書かれているだろうか。「です、ます」と「だ、である」が混在していないか。3行以上にわたる長い文の場合、主語が一致しているか、文構成がおかしくなっていないか、チェックしよう。長すぎる文は2つの文に分割する。助詞の使い方は大丈夫か。漢字で書くべきものがひらがなになっていたり、その逆がないか、漢字の変換ミスがないか確認しよう。その上で、人に書評を読んでもらって意見を聞き、書き直すことが出来ればベストだ。

最後に、書評なのだから、対象作のデータは欠かすことが出来ない。編著者名、本の題名、出版社、出版年を必ず書評の冒頭あるいは末尾に記しておこう。

エラーに注文ばかり書いたが、誤解しないで欲しい。50篇の書評を読むのは苦しくも楽しい経験だった。これだけ多くの人たちがさまざまな著作に取り組み、読書という孤独な営為を、書評という公共の場での言語行為に移し替えようとしていることに感動せずにはいられない。大学が知の生産、交流の場であり、そのための生きた練成の場であることを、君たちの書評は証している。来年もさらに多くの、充実した書評が寄せられることを願ってやまない。

第4回 松山大学図書館書評賞応募要項

- 応募資格** 本学学生(松山大学および松山短期大学学生)、ただし大学院生は除く。
- 書評対象図書** 松山大学図書館所蔵の図書であること。
- 応募要領** ①図書1冊につき800字以上1,200字以内とする(ただし、未発表のもの)。
②原則として、テキスト・ファイルで作成し、フロッピー・ディスクで提出すること(400字詰原稿用紙でも可)。
③応募件数は、2篇以上も可(但し受賞は1人1篇とする)。
④応募後の書評の使用権は、松山大学に帰属する。
- 締切・提出先** ①**2004年10月15日(金)午後5時まで**に、図書館のカウンターへ提出すること。
②本学所定の応募届に必要な事項を記入の上、作品に添付して提出すること。
- 表彰** ①最優秀書評賞……………1篇 表彰状及び副賞(図書券1万円)
②優秀書評賞……………2篇 表彰状及び副賞(図書券5千円)
③佳作……………5篇 表彰状及び副賞(図書券3千円)
- 審査** 図書館運営委員会
- 入選発表** ①2004年12月15日(水)午前10時
図書館内および2号館前掲示板にて発表する。
②入選作品は、図書館ホームページおよび印刷物にて公表する。
- 表彰式** 2005年1月14日(金) 予定
- 書評について** 読書感想文ではなく、書評=「書物の内容を批評・紹介すること」であること。

松山大学図書館書評賞 ちょこっとQ&A

- Q.1** 書評を書こうと思う本を松山大学図書館が所蔵していない。
A.1 現在、所蔵してなくても、読みたい図書は「購入希望」を出せます。所蔵していない本の書評を考えている方は、是非メインカウンターへ購入希望を出して下さい。
- Q.2** 複数応募の場合は？
A.2 応募件数は複数可ですが、受賞は1人1篇です。どんどん応募して下さい。
- Q.3** 書評とは？
A.3 書物について、その内容を紹介・批評した文章。(大辞泉より)
石川達三は「書評は文化批評であり読書指導でもある」と言っています。書評を書くことは、文章を正確に理解する能力、それを十分に思考し論理的かつ優れた文章を書く能力を身につけることができます。それが、本学が書評賞を設けた目的の一つです。
- Q.4** 受賞しやすいジャンルはありますか？
A.4 書評の対象作品はジャンルを問いませんし、受賞作品にジャンルの傾向はありません。

Q.5 過去3回の応募者はどのくらい？

A.5 下記の資料を参考にして下さい。数字は応募篇数です。(2001年度のみ、複数篇応募がありました。)

第1回〔2001（平成13）年度〕

| 学 部 | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 小計 | | 合 計 |
|-----|----|---|----|--------|------|------|----|---|------|--------|--------|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 経 済 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 経 営 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 人 英 | 0 | 0 | 0 | 1(1) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1(1) | 1(1) |
| 人 社 | 0 | 0 | 0 | 14(14) | 6(5) | 8(8) | 0 | 0 | 6(5) | 22(22) | 28(27) |
| 法 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2(1) | 0 | 0 | 0 | 2(1) | 0 | 2(1) |
| 合 計 | 0 | 0 | 0 | 15(15) | 8(6) | 8(8) | 0 | 0 | 8(6) | 23(23) | 31(29) |

()内は応募者数

第2回〔2002（平成14）年度〕

| 学 部 | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 小計 | | 合 計 |
|-----|----|---|----|----|----|----|----|---|----|----|-----|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 経 済 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 経 営 | 0 | 0 | 8 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 3 | 11 |
| 人 英 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 人 社 | 0 | 0 | 5 | 8 | 0 | 16 | 5 | 8 | 10 | 32 | 42 |
| 法 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 |
| 合 計 | 1 | 0 | 13 | 11 | 0 | 16 | 7 | 8 | 21 | 35 | 56 |

第3回〔2003（平成15）年度〕

| 学 部 | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 小計 | | 合 計 |
|-----|----|---|----|----|----|---|----|----|----|----|-----|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 経 済 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 経 営 | 0 | 0 | 5 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 5 | 4 | 9 |
| 人 英 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 人 社 | 1 | 0 | 5 | 8 | 5 | 6 | 0 | 14 | 11 | 28 | 39 |
| 法 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 1 | 0 | 12 | 12 | 5 | 6 | 0 | 14 | 18 | 32 | 50 |

最後に、良書をたくさん読んで、是非「選考委員が悲鳴を上げるくらい」多くの応募を期待します。先ずは生協の「読書マラソン」を足ならしにしてみてもはどうでしょう。

私が薦めるこの一冊

経営学部助教授 荻谷 寿夫



もう決断力しかない —意思決定の質を 高める37の思考法—

スティーブン・P・ロビンズ 著

請求記号：141.8/Ro

配架場所：開架(2階)

人生は意思決定の連鎖によって構成されている。朝何時に起きるか、朝食に何を食べるか、何を着ていくかなどの通常「意思決定」と呼ばれないような日常反復される意思決定から、進学先を決める、就職先を決める、家を買う、結婚相手を決めるといった、人生にそう何度もない意思決定まで、ひとくちに意思決定といっても非常に幅広い。反復される意思決定の場合、その決定の結果から次の決定を修正する機会がある。しかし滅多にない意思決定の場合には、次の決定を修正する機会があるかわからないし、またその決定での失敗は大きな損失を伴う。しかし、損失をおそれるあまり決定を行わないという意思決定は最悪の決定である。なぜならば、人生は有限であるために、意思決定の先送りは決定する機会の喪失になりかねないからである。大学生の皆さんにとって卒業後の進路という意思決定問題は先送りが許されない決定である。しかも、大学3年の冬にはエントリーシートへの記入という形で、自分の進路の決定を(しているというフリだけでも)行わねばならない。では、すぐれた意思決定を行うためにはどうすればいいかという問いに対して本書は多面的に答えを提供している。

意思決定の結論だけをとりあげて合理的であるかどうかであるとか、正しいかどうかを論じることはできない。意思決定にはまず目標があり、目標への優先順位が存在する。そして選択肢を列挙し、望みしさの順位づけを行い、最も望ましい選択肢を選択する。これら一連のプロセスが意思決定である。合理的な意思決定とはいっても、その背後には意思決定者にとっての価値観が存在する。自分自身の価値観と目標を明確にするところから意思決定は始まる。価値観、目標、意思決定の過程の合理的な統一性を維持することが意思決定の質を決める。アルバイトでカネを稼ごうとして、就職活動で失敗するというのは、短期的な小さな利益を追うことで長期的な大きな利益を失う愚行である。これは目の欲望によってカネを稼ぐという意思決定がゆがんでしまう一例である。意思決定の機会で陥りやすい間違いやバイアスについて知ることは、すぐれた意思決定のために必要である。

スティーブン・P・ロビンズは、組織行動論の第一人者であり、彼の著書である『Organizational Behavior』は10版を数えるベストセラーである。本書は、意思決定について、その本質、意思決定のスタイル、意思決定のバイアスとエラー、意思決定の捉え方、まとめの5部37章構成で論じている。1章あたり5～6ページと簡潔にかつ日常的な用語によって書かれているので読み通すことにさほどの労力や知識は必要としない。しかし、本書はただ読み流すのではなく、各章の内容を自らの意思決定パターンやスタイルと照らし合わせて、改善していこうとする努力が求められるし、そうすることによって、意思決定の質は飛躍的に改善されることになる。

またビジネスマン向け翻訳書にはめずらしく巻末には参考文献リストがついているので、意思決定論について深く研究を進めたいひとの入門書としても非常に役にたつ一冊である。

人文学部英語英米文学科講師 寺嶋 健史



全国アホ・バカ分布考 —はるかなる言葉の旅路

松本 修著

請求記号：818/M5/1

配架場所：開架(3階)

本書は、深夜の人気番組「探偵ナイトスクープ」で取り上げられた何気ない調査がきっかけとなった「アホ・バカ語の全国分布」に関する研究報告です。言語学会をもゆるがす数々の大発見となり、立派な研究調査としても認められ、関西ローカルだったその番組が全国放送に広がるきっかけにもなりました。

関東では「バカ」、関西では「アホ」と言う。この程度のことは広く知られているようですが、「アホ」・「バカ」の境界や、さらに関東・関西以外の地域での表現となると、知る人はほとんどいないはず。 「アホ」「バカ」に相当するその地方特有の表現について、全国市町村の教育委員会にアンケートを実施すると同時に、それぞれの言葉の語源や派生語(意味を強めるときに接頭語・接尾語

に何を付けるか、等)についても調べています。

人気番組「トリビアの泉」で取り上げられるレベルの些細な疑問を、さらに学問的側面から分析を試みた言語地理学に関する一考察といえるでしょう。

民俗学者の柳田国男が研究した有名な「蝸牛考」の「アホ・バカ」版と考えてよいと思います。文化的中心地から同心円状に方言要素が広がっていく、という方言分布の解釈の1仮説である方言圏論はよく知られていますが、「アホ・バカ」の調査でも同様の結果が得られました。かつての文化的中心地である京都から等距離にある地域には同様の表現が見受けられる、という仮説から、愛媛を含む中国・四国地区と関東甲信越地区とでは似通った表現が使われているということになります。

愛媛をはじめ、皆さんの出身地では「アホ・バカ」をどのように表現するか、同様の表現が他のどの地域で使われているか、またその語源や派生語はどうなっているのか。本書はそんな疑問に答えてくれるかもしれませんが、巻末には全国の「アホ・バカ」分布図がついており、また、様々な表現例が県別にまとめたページもあります。娯楽としてだけでなく、普段何気なく使っている日本語の表現について改めて考え直して理解すると言う意味で、本書を読んでみてはいかがでしょうか。自分だけのトリビアを発見して、心の中で「トリビアン！」と叫ぶかどうかはわかりませんが。

図書館新システムがスタートしました。

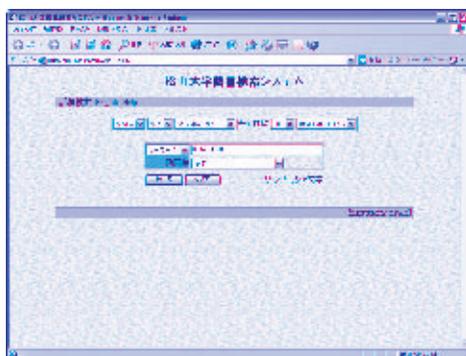
本学図書館では、2004年4月13日より図書館新システムがスタートしました。

館内の検索用パソコンの入れ替えと共にパソコンを増設しました。利用者が、より便利により早く検索できる環境の整備、充実を図りたいと思います。

図書館新システム稼働式

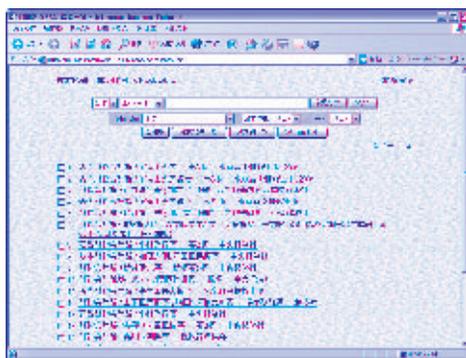


検索画面



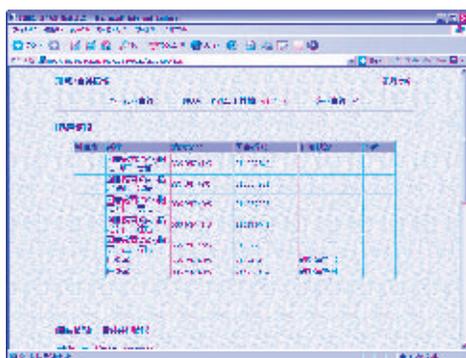
1

検索条件を指定して、検索を実行します。



2

「検索結果一覧」が表示されます。目的の図書がみつかったら、該当の文字の部分をクリックします。



3

所蔵情報、利用状況、「書誌情報」が表示されます。

——統計データで見る松山大学図書館——

図書館利用状況推移表

※貸出冊数は研究室分を除く

| | 入館者数 | 貸出冊数 | 閲覧冊数 | | | 学生数 |
|--------|---------|--------|--------|--------|--------|-------|
| | | | 開架 | 閉架 | 小計 | |
| 1999年度 | 217,672 | 47,807 | 82,681 | 11,458 | 94,139 | 6,240 |
| 2000年度 | 220,574 | 49,377 | 73,299 | 12,132 | 85,484 | 6,389 |
| 2001年度 | 222,166 | 55,394 | 82,063 | 12,035 | 94,098 | 6,410 |
| 2002年度 | 230,233 | 58,482 | 74,087 | 12,488 | 86,575 | 6,184 |
| 2003年度 | 216,074 | 54,429 | | 10,068 | 10,068 | 5,997 |

※2003年度から開架閲覧冊数をとっていません。 ※学生数については、大学（学部生）のみ、5月1日現在の人数。

『相互協力』利用件数推移表

| | 本学からの申込み件数 | | | 他館からの受付け件数 | | | 合計 |
|--------|-------------|-------------|------|-------------|------------|------|-------|
| | 文献複写 | 相互貸借 | 所蔵調査 | 文献複写 | 相互貸借 | 所蔵調査 | |
| 1999年度 | 338 (43) | 175 (23) | 25 | 242 (15) | 2 (0) | 10 | 792 |
| 2000年度 | 363 (41) | 140 (15) | 2 | 451 (35) | 39 (8) | 9 | 1,004 |
| 2001年度 | 268 (23) | 177 (13) | 3 | 499 (51) | 52 (9) | 12 | 1,011 |
| 2002年度 | 493 (92) | 230 (40) | 4 | 829 (90) | 52 (12) | 27 | 1,635 |
| 2003年度 | 589 (99) | 312 (63) | 16 | 723 (73) | 52 (23) | 8 | 1,700 |

※〔〕内は謝絶の件数

1999年9月よりNACSIS-ILLを開始した。

『編集後記』

一昨年5月に「アトランティスのこころ」という映画を観ました。主人公の少年が11歳の誕生日プレゼントに母親から「図書館の利用カード」（成人用）をもらいます。（因みに時代は1960年代）

本人はひそかに自転車欲しくて期待していたのですが母親は「お前の誕生日に自転車を買うお金の余裕はないの。おまえのお父さんはあんまりお金を残してくれなかったんだから」との言葉。

翌日、ガールフレンドから「誕生日プレゼントは何だった？」と聞かれたとき「図書館の利用カード」と言うと彼女から「自分のドレスを買うお金があるのに？」と言われ、「仕事をするのに必要なんだ」と母親をかばいます。

しかし、家の3階に引っ越してきた老人に、母親へ言えなかった、「図書館の利用カードはタダだから、それも成人用だなんて」と不満を漏らします。そのとき老人は

「お母さんは良い選択をしたよ。図書館利用カードは最高のプレゼントだ。」と良書に触れることについて語ります。

そのセリフの内容は忘れたのですが、最近原作（ステイーブン・キング）を読んで前段部分が映画と少々ちがうのですが、老人（アンソニー・ホプキンスが演じてました）の本について語るところは改めて人が本（読書）に出会うタイミング、それをつくる図書館の存在について思いを新たにしました。

活字離れが叫ばれて久しい今日、インターネットでいろいろな情報を簡単に得ることもできる現在、「大学図書館」のあり方等々、諸難題があります。情報量はたくさんですが、本（読書）から得る知恵は不変ではないかと。本学図書館も新図書館システム導入に伴い利用者へのサービス向上はもちろんのこと図書館がキャンパス内の「知の源流」となることを目指したいと思います。

松山大学図書館報 No.33 2004年7月1日発行

編集・発行 松山大学図書館

〒790-8578 松山市文京町4番地2 TEL(089)925-7111(代)

ホームページアドレス <http://www.matsuyama-u.ac.jp>

E-mail: mu-libs@gc.matsuyama-u.ac.jp